

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岩野田小学校

校長名 小西 佳美

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育を核として、多様性を認め合い、「みんなの幸せのために」共に成長する教育活動を、「チーム岩野田」で推進する。 ・「なぜ」「どうして」を大切にしたい主体的な学びの実現に向け、授業改善に取り組む。 ・ICTを効果的に活用した学びの場を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの幸せのため」をキーワードに、互いのよさや考えを尊重し合えるよう、児童への啓発、指導に努めることができた。 ・総合的な学習の時間を中心に、自ら課題意識をもって取り組むことができたとする児童が89%(7月より5%アップ)となった。 ・英語科では、低学年からの段階的な指導の在り方について検討、実践を重ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合い活動では、自らの力での話し、問題について自分の言葉で伝える力を付ける学習がなされていた。 ・互いの幸せについて共に考えることは大切でよい取り組みだと思う。 ・児童が自ら考える力を付けることが大切だと感じる。 ・ICT機器は効果が得られる場面を考え、効果的に活用されていると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性や知識、スキルを互いに学び合いながら、「チーム岩野田」としての指導体制をさらに充実させたい。 ・「なぜ」「どうして」の課題意識をもって探究的に学ぶ授業づくりを今後も継続して行っていく。 ・ICTを効果的に活用して、より効果的な「個別最適な学び」と「協働的な学び」の在り方を探っていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぎふMIRAI's」を視念に、岩野田校区の「人・もの・こと」を学びを、地域人材、地域資源を活用することで、コミュニティ・スクールの機能の充実を図る。 ・校区の特性を生かした幼保小中高大との連携を図った取り組みを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日等の教育活動を主に、岩野田校区の「人・もの・こと」の学びを、各学年の総合的な学習を中心に地域人材、地域資源を活用して進めることができた。 ・校区の幼保の年長児を招いた1年生秋遊びや中学校区合同あいさつ運動、岐阜城北高校生による読み聞かせ活動等、学年に応じた地域の教育機関との連携を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した様々な取り組みがなされている。 ・岩野田の幼保小中高大までそろっている文教地である強みを生かし、連携を図っていただきた。 ・学年ごとにも活用が進められている。 ・地域の助けが必要な内容は、事前に一覧表に示して町づくり協議会でも話題にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携事業を見直し、地域コーディネータと相談、連携して、岩野田校区の地域人材、地域資源のよりよい活用を進め、岩野田地域の一員としての自覚を高める。 ・校区の特性を生かした幼保小中高大との連携を図った取り組みを、より効果的なものになるよう、連携を図る。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくりにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が笑顔で、元気に子どもたちの前に立てよう、業務内容の改善、時間外勤務時間の適切な管理を行う。 ・職員同士のコミュニケーションを密に図り、誰もが自己有用感もてる「働きがい」のある職場を創る。 ・ICT機器(ソフト)を活用し、より効果的、効率的な働き方改革を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の時間の有効活用を考え、タイムマネジメントしながらの勤務に心がけた。 ・教職員がそれぞれの役割を理解し、「チーム」の一員としての自覚をもって支え合うことで、所属感、自己有用感につながった。 ・ICT活用研修を継続して行うことで、職員のスキル向上をめざし、実際の指導に役立たせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観では笑顔で教壇に立っておられる職員が多く、よい職場環境だと感じた。 ・教職員が互いに連携して、よりよい教育を進めてほしい。 ・担任の先生の影響はとても大きいと感じる。先生が元気、笑顔であることが大切。 ・先生が健康でやりがいがあるようお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の減少を目指しつつ、業務量や内容についてさらなる見直しを行い、職員が元気に、笑顔で児童と接することができるよう改善を図る。 ・職員間のコミュニケーションを大切に、自己の長所を生かしながら互いに支え合う職員集団を育成する。 ・会議や打ち合わせの効率を上げるためのICT機器の効果的な活用をさらに進める。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が多様な事態への危機管理意識を高くもち、様々な学校事故の「未然防止」に努める。 ・児童の「自分の命は自分で守る」意識の向上を目指し、多様な訓練を実施する。 ・各種マニュアルの恒常的な見直しを行う。 ・家庭、地域、関係諸機関と連携し、地域ぐるみで児童を見守る体制をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・常に児童の様子を観察し、寄り添った指導を心がけることで、様々な学校事故に対する未然防止に努めることができた。 ・93.1%の保護者が「大切さや社会のルールを守って生活している」と回答し、児童も「命を守る訓練」を通して安全への意識を高めている。 ・今年も「ヒヤリハット地図」の更新を行い、地域の安全について考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育が学年に応じて取り組みがなされている。掲示物にも位置付けられ「日常」を感じた。 ・いじめや不登校をなくすことは学校だけではなく、地域、学校、家庭の連携が大切である。 ・自分の命を自分で守るために、自ら考えて行動する児童を育てたい。動物や生き物に対する知識や感性を育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止の校内研修や毎月の安全点検等、学校事故の未然防止や感染症予防等、危機管理意識を常に高くもたせる。 ・様々な形式での「命を守る訓練」を工夫し、「自分の命は自分で守る」ために自分で判断、行動ができる児童の育成を目指す。 ・安全に関わる情報をスマート連絡帳を活用した情報提供を行い、家庭、地域との連携を図る。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースからデジタルデータまで、個人情報の適切な管理に努める。 ・施設設備などの定期点検や早急な修繕対応等、適切な管理に努める。 ・学校納入金の適切な取り扱いと管理を、複数の職員の目で行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・管理簿を活用したり、複数の目で確認し合ったりするなど適切な管理ができるように努めている。 ・毎月の安全点検結果を校務員とも共有し、早急な対応を心がけるとともに、必要に応じて要望書を提出し、安全な環境で学べるようにしている。 ・学校納入金の管理を複数で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙とデジタルをうまく使い分けながら、効率的に進めてもらいたい。 ・古く歴史のある建物、施設だが、施設環境は、整えられていると感じた。 ・児童が安全に安心して生活できるようにしてもらいたい。 ・金銭のトラブルがないよう、適切な管理をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースだけでなく、デジタルデータの個人情報についても、職員一人一人が意識を高くもって適切な管理ができるようにしていく。 ・安全安心に学校生活を送れるよう、施設の点検・整備など、適切な管理に努める。 ・学校納入金の適切な取り扱いを引き続き努めていく

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/iwanoda-e/>